

# 令和 7 年ホヤ類調査結果速報 No. 2

令和 7 年 7 月 29 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

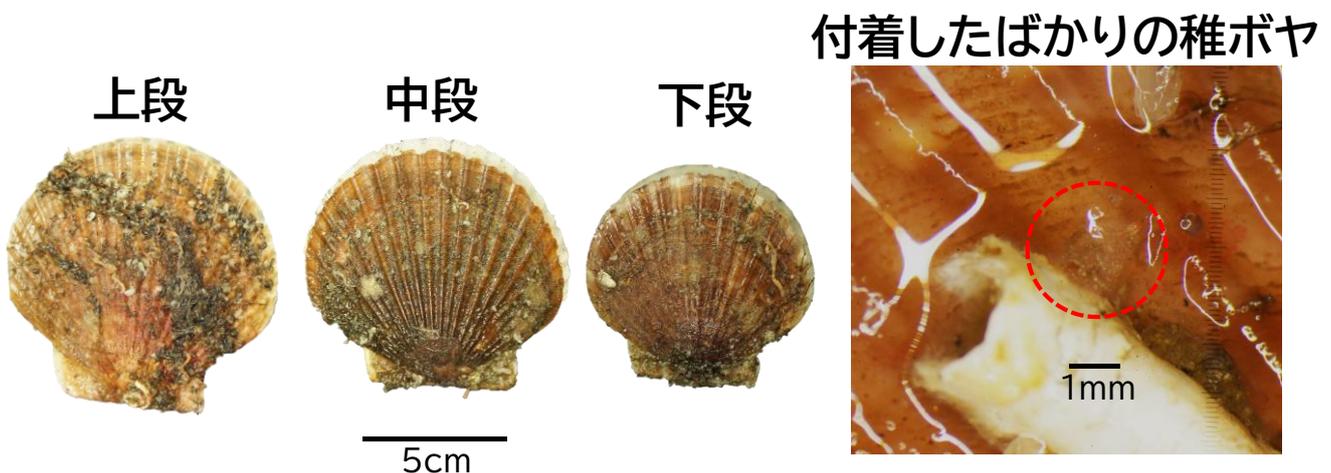
【アドレス：<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/hakodate/index.html>】

7 月 22 日に渡島管内八雲町黒岩地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

## 結果概要

- **ヨーロッパザラボヤの新規付着を確認**  
体長 3mm 未満で最近付着した個体でした。
- **ホヤの付着密度は過去と比べて低密度**  
ホタテガイ 1 枚あたり平均 1.5 個体（R6 年同時期は 11.4 個体）でした。
- **深い層の水温は平年よりも低く、ホヤの産卵遅れ気味**  
産卵水温（13℃）を上回った層が、平年よりも浅かったです。
- **次回調査結果を注視**  
今後、8 月にかけてホヤが最も付着する時期に入ります。この時期の付着数が今年の付着数を大きく左右します。

写真 ホタテガイに付着したヨーロッパザラボヤ 令和 7 年 7 月 22 日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和 7 年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

# 耳吊りホタテ貝付着物調査

[調査月日：7月22日、調査場所：八雲町黒岩沖、採取数：上中下層 各5枚]

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました(写真)。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ1枚あたり1.5個体であり、この時期としては過去最低の付着数でした(表1、図2)。平均体長は1.7mm、最大体長は2.8mmであり、いずれも最近付着した個体でした(図なし)。平年では8月にかけて付着数が急激に増加するので(図2)、次回調査の付着数を注視してください。

養殖漁場の水温は、0~3m層で23℃を超えていました(図1)。一方、10mよりも深い層では平年よりも低い水温でした。そのため、ヨーロッパザラボヤの産卵開始水温(13℃)を上回る層が平年よりも浅くなっており、全体的に産卵が遅れている可能性が考えられます。

表1 付着生物調査結果(八雲町黒岩地区：令和7年7月22日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	7.4g	2.1g	2.5g	4.0g
ヨーロッパザラボヤ	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満	0.1g未満
その他	7.3g	2.0g	2.5g	3.9g
ヨーロッパザラボヤ個体数	1.4個体	1.6個体	1.4個体	1.5個体
令和6年7月(R6.7.16)の個体数	7.8個体	11.8個体	14.6個体	11.4個体
令和5年7月(R5.7.18)の個体数	2.4個体	7.2個体	2.8個体	4.1個体
令和4年7月(R4.7.20)の個体数	5.0個体	8.8個体	9.8個体	7.9個体

図1 調査地点近傍(八雲沖3マイル)の令和7年7月22日の水温鉛直分布

赤線：R7年7月22日、青線：平年(H25-R6年の平均)  
 点線：ヨーロッパザラボヤの産卵開始水温(13℃)

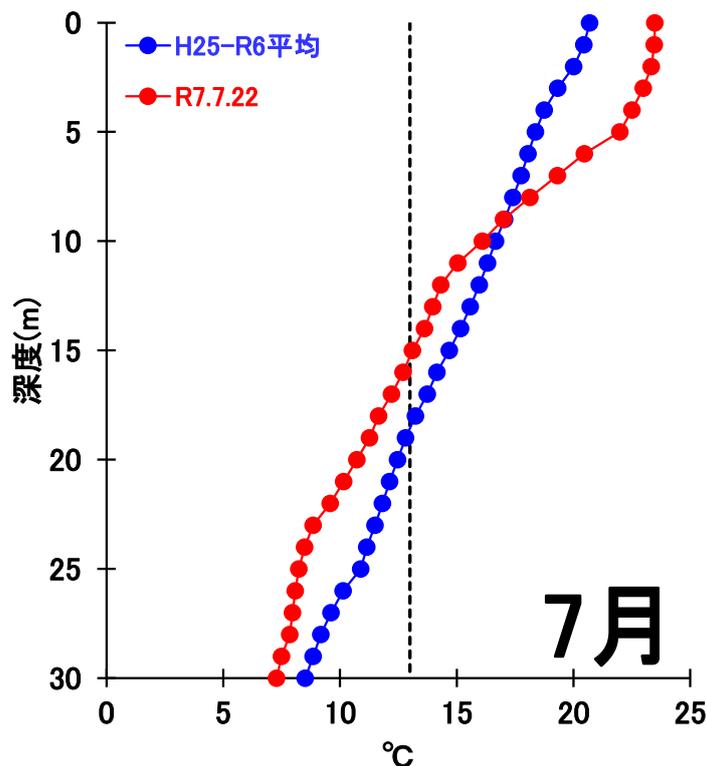
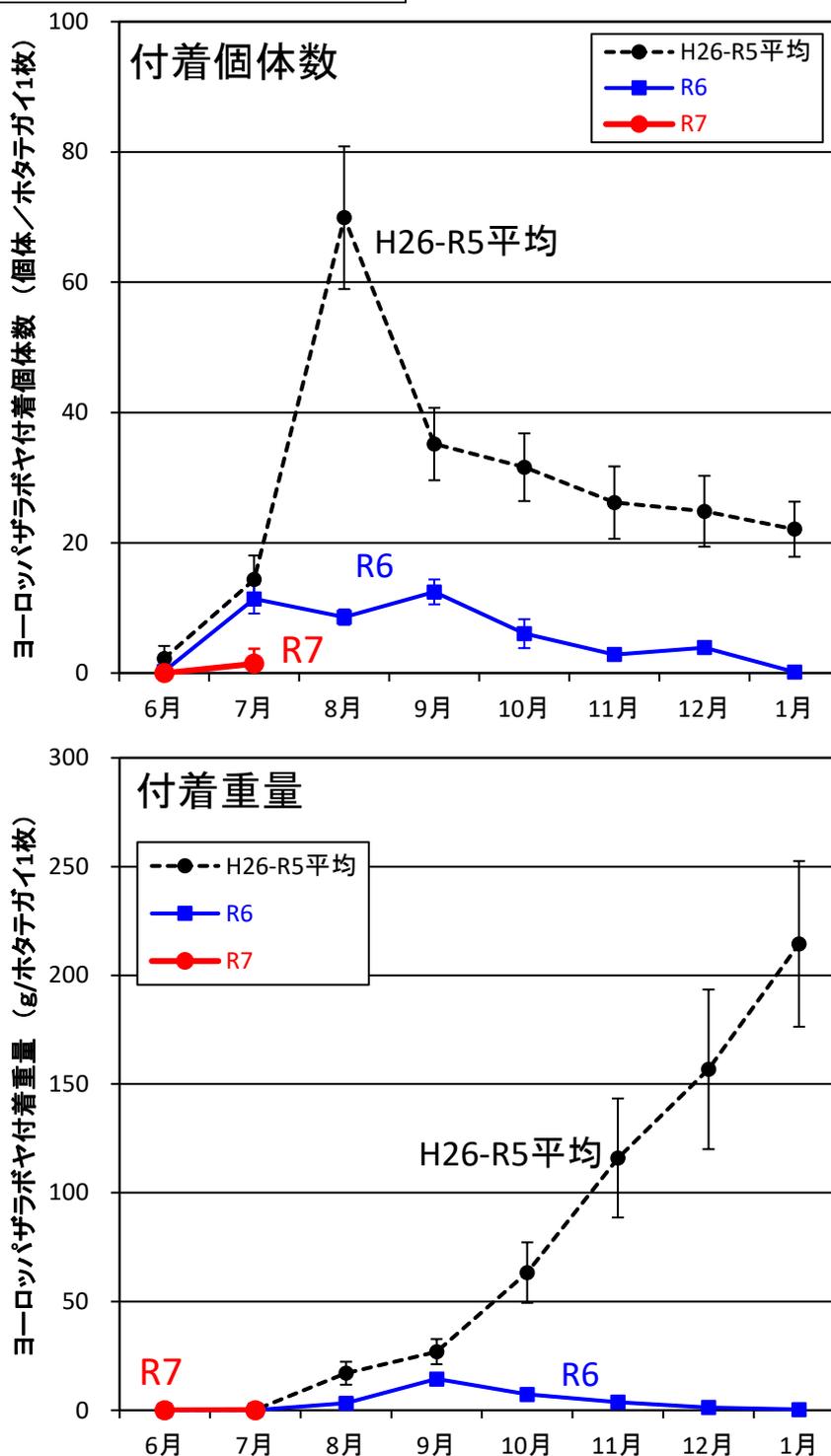


図 2 ヨーロッパザラボヤの付着量の季節変化



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去 10 ヶ年（H26～R5 年）のデータから、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着数は 7～8 月に最も増加し、8～9 月に大きく減少します。10 月以降、個体数は緩やかに減少していきませんが、付着個体の成長に伴い、付着重量は急激に増加していきます。